会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 池永
日 時	平成28年6月20日(月曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午後 0 時 30 分
出席委員	馬場 平本 酒井 富谷 小川 奥村 福井		
理事者出席者	【市立病院】玉井病院事業管理者、佐々木管理部長 [病院総務課] 松村課長 [経営企画課] 竹内副課長 【環境市民部】塩尻部長、吉田市民窓口・保険医療担当部長 [環境政策課] 西田課長 [保険医療課] 荻野課長 【健康福祉部】栗林部長、辻村子育て・障害福祉担当部長 [地域福祉課] 猪上課長 [子育て支援課] 阿久根課長、森岡家庭・児童支援担当課長 [健康増進課] 塚本課長、中村母子健康係長		
事務局	門局長、鈴木係長、池永		
傍聴者	市民 1名	報道関係者 - 名	議員1名(竹田)

会 議 の 概 要

1 開 議

2 事務局日程説明

3 議案審査

[理事者入室] 市立病院

(1) 第6号議案 亀岡市立病院経営審議会条例の制定について

<病院事業管理者>

(あいさつ)

<市立病院管理部長>

(資料に基づき説明)

～ 10 : 08

[質疑]

<酒井委員>

審議会を条例設置しない方針を持たれていた時もあった。今回、条例設置することとした経緯は。

<市立病院管理部長>

今後、設定した数値目標の検証を行うにあたり、諮問・答申が必要になってくる。プランの策定期間から条例で設置し、重きをおいた形でやっていきたいと考えた

めである。

< 酒井委員 >

プランを作った後の検証をしっかりとやっていただきたい。第3条第2項(1)「医療又は経営に関し」とあるが、病院の経営は特殊な部分があるので、運用の際は「又は」ではなく、病院経営に関して専門的知識のある人を探していただきたい。見込みはあるのか。

< 市立病院管理部長 >

メンバーは決まっていないが、おおまかには近隣病院、医師の派遣元である府立医大、南丹保健所、行政、地元の代表を考えている。どこまで病院の経営に精通しておられる人がいるか、これから探していきたい。

< 酒井委員 >

プランの検討はまだ一切始まっていないのか。進捗状況は。

< 市立病院管理部長 >

改革プラン策定にあたり、指名プロポーザルを行い、業者を選定した。契約事務をしているところである。3月末のリミットに向け鋭意進めていきたい。

< 酒井委員 >

業者への委託を考えているのか。費用の見込みは。

< 市立病院管理部長 >

業者委託を考えている。データを蓄積しており、それを一から拾っていくと、病院は特殊なので、十分なものができない。金額的には700万円程度を想定している。

< 病院事業管理者 >

当初私は外部委託の案に違和感があった。しかし外部委託によって、一部にプロの外部評価が入る。100床規模のDPCデータや病院データを彼らは持っている。われわれの病院の医療におけるランキング、いろいろな経費を含めたデータを持っており、何を削減すべきか、どういう病院の形態であるべきか、そういう評価をある程度持っている。そういうことを考えると良いタイミングだと考える。そういう意味を含めて外部委託した。またそれ自体を行政や大学、地域の病院の院長等で評価するので、ダブルで外部評価するようなことになる。

< 酒井委員 >

数字を統計的に扱うという専門的な作業を外部に委託するのは分かるが、核になる部分は市立病院でイニシアティブをとって作り上げていただきたい。

< 病院事業管理者 >

基本的にはそうだが、我々が他の病院の経営状況を把握するのは難しいので、それを見せていただいて、病院の幹部とディスカッションしながら進めていく形になると考える。

< 福井委員 >

改革プランは外部委託で良い。病院の目的やあり方は、管理者が既に答弁されている。そこだけ徹底すれば良い。第2条に、病院の経営に関して「審議する」と定められている。審議なのか、それとも協議なのか。「審議する」というと、審議会が認めないと予算執行もできないというイメージを受ける。

< 市立病院管理部長 >

審議会は「病院事業管理者の諮問に応じ」となっており、病院事業管理者が意見を聞きたいことについて審議していただく。その審議が通らなければ全てできないということではない。

< 福井委員 >

「審議する」というと、審議が通らなければできないというイメージである。そんなことはないと思うが、文言上ひっかかる部分があって質問した。助言なら分かるが、「審議する」というと非常に重たい。第3条第2項の(1)「専門的知識又は経験を有する者」というのが非常に関わってくる。ここでガチガチの人ばかり固めてしまうと、管理者が身動きできないということにもなりかねない。そうかといって「審議する」と書かれると、しっかりした人を集めないといけない。

<市立病院管理部長>

第5条第2項で過半数の出席で会議を開くこと、第3項で過半数で可否を決めることを定めている。必ずしも全員同意を考えているわけでないが、そちらに向かっていけるように、十分な資料を作っていきたいと考えている。

<福井委員>

管理者がしようとされている改革の足かせにならないようにしていただきたい。今まで病院にあった運営委員会をやめるのはなぜか。

<市立病院管理部長>

運営委員会は前回の改革プランを策定する時に立ち上げたもので、改革プランの時期は平成21～23年度で終わっていた。その後、毎年1回点検をしてきたが、そこで話し合いをしても、必ずしも病院に反映していなかった。同じような形の委員会を2つ持つのは無理なので、運営委員会は平成27年12月の任期切れで一旦終わらせた。今回、条例設置となったので、運営委員会の要綱は廃止する。

<病院事業管理者>

実際には、審議会のメンバーは前の運営委員会のメンバーと重なる可能性がある。今回は新改革プランだが、それがメインではなく、病院の基本的なあり方という根本的なところに踏み込むという意味もありリニューアルする。メンバーは、前のことをご存知であるということ踏まえ、半分ぐらいは同じ方に参加していただく必要があると考えている。

<奥村委員>

委員について、医療関係者が多かったが、経営のコンサルタントや税理士等の専門的知識を持っておられる人の選任はないのか。

<病院事業管理者>

新改革プランを外部委託するが、そこはコンサルを基本に、経験も豊かなところである。細かい数字でプレゼンしたり、ディスカッションに加わっていただく形はとらざるを得ないと考えている。ただ、委員として入っていただくかどうかは微妙なところである。違うコンサルにメンバーに入ってもらえる手はあるかもしれないが、それでスムーズに進められるかどうか。基本的には、委託したコンサルに参加していただいて、助言をいただくというイメージで考えている。

<奥村委員>

プランについてはそれで良いが、今後の病院経営について考える時、先ほど述べたようなメンバーが必要になるのではないかと。経営に関して、医師が本当にプロかどうか疑問である。市立病院なので黒字ありきとは思っていないが、存続するならばそれがベストである。そうすると経営が一番大事になってくるので、ぜひそのようなメンバーも選任いただきたい。次に、各委員の報酬はどうなるのか。

<市立病院管理部長>

市の例と同様に定めていきたいと考えている。

<奥村委員>

医師なので、他の審議会と同じで良いのかどうかを含めて検討いただき、要綱の中

で適正な額を定めていただきたい。

<馬場委員長>

診療報酬の体系が変わって各病院が苦しんでいる。入院患者の回転をあげるため、どのような取り組みをしているのか。

<病院事業管理者>

基本的に在院日数が短くなっている。短期間で退院されるので、使用する急性期病床がだんだんスモールダウンしている。80～90床でまわしていたものを、60床という形でまわすことがだんだん可能になってくる。それが他の公立病院での病床のクローズに繋がっている。今回の新改革プランの中で、外部評価を踏まえて、我々の病院の病床のあり方、急性期のベッドと地域包括にする等、効率の良い使い方を示していただき、多くの人に理解していただけるあり方を見出していきたいと考えている。

<馬場委員長>

第2条で「諮問する」となっているが、経営形態について、公営企業でいくのか独立行政法人まで含めた広い意味の経営形態でいくのか、どのような諮問をするのか。

<病院事業管理者>

中・長期にわたってそういうことは大切である。新改革プランは短期～中期、5年ぐらいと考えており、その中での変更はイメージしていない。ただ、そういうアドバイスをいただくことの必要性は感じている。

[理事者退室]

～ 10 : 32

[理事者入室] 環境市民部

(2) 報告第1号 平成27年度亀岡市国民健康保険事業特別会計補正予算(第5号)

<環境市民部長>

(あいさつ、概要説明)

<保険医療課長>

(資料に基づき説明)

～ 10 : 42

<酒井委員>

これまでのグラフを見ても2月、3月が減っている根拠はない。過去に減っていたから今年も減るという考え方はおかしい。きちんと見込んでいただきたい。担当課の考えだけでできないところもあると考えるが、しっかりと予算を獲得していただきたい。

<馬場委員長>

要望か。

<酒井委員>

今後はしっかり見込んでいただきたい。

<保険医療課長>

今後このようなことがないように、適正に見込んでいきたい。

<福井委員>

病気になって700万円かかることまで読めと言われても読めない。医療が進めば進むほどお金がかかることを懸念する。平成30年度の広域化まで乗り切らなければならないが、この数字を見て、28年度に関して、担当課からいくらか予算措置を求めているのか。

< 保険医療課長 >

28年度については、前期高齢者交付金が前年度より4億円増加したことにより、予算は編成できている。今回の医療費増加により、28年度は補助金が増加することも見込まれ、なんとか運営できると考えている。28年度においては、診療報酬が約1%減額されることから、医療費の動向を十分注意して見守っていきたい。

< 奥村委員 >

3月は見込みから約4千万円多く、4月はほぼ見込み通りという説明だった。補正額は2200万円であるが、4千万円との整合性は。

< 保険医療課長 >

グラフの医療費については、療養給付費、療養費、高額療養費を合わせた数字となっている。実際に予算が不足するのは療養給付費の一般被保険者分1205万2千円と、退職被保険者分1021万2千円、合計2226万4千円となっている。全体でそのような数字になった。予備費を充てていたところもあり予算が確保できたものである。

< 奥村委員 >

予備費は全部でいくらか。

< 保険医療課長 >

約2500万円で、予備費の残りは815万円である。

[理事者退室]

~ 10 : 50

[理事者入室] 健康福祉部

< 健康福祉部長 >

(あいさつ)

(3) 第1号議案 平成28年度亀岡市一般会計補正予算(第1号)

< 健康増進課長 >

(資料に基づき説明)

~ 11 : 02

[質疑]

< 酒井委員 >

830万円の委託料には、職員体制の分も含まれているのか。

< 健康増進課長 >

スタッフの職員体制の配置が含まれている。

< 酒井委員 >

ガレリアにある子育て支援センターとの違いは。

< 健康増進課長 >

ガレリアは社会福祉協議会が行っている。今回の母子保健型については、保健師等

専門的な職員を配置する形になっており、そこが違うところである。ガレリアは子育て支援員等、研修を受けた人が業務に当たっておられる。

< 酒井委員 >

ガレリアは、子どもを連れて遊びに行き、そこにいる人に相談するような形で利用されている。利用者にとっては違いが分からない。どちらに相談してもつながるような体制を考えているのか。

< 健康増進課長 >

それぞれ情報共有・情報交換することは必要である。ガレリアは「基本型」であり、来られた人に相談を行うものである。「母子保健型」については訪問も行い、育児等の支援も行うなど、専門的な知見で、当事者目線を生かした形で業務を行っている。

< 酒井委員 >

今回のものは、遊びに来たついでではなく、直接相談に来た人に応じるということである。利用者がどちらに行き話をするかによって結果が変わることがないように、十分な情報共有と案内をしていただきたい。その仕組みは考えているのか。

< 子育て・障害福祉担当部長 >

ガレリアで行っているひろば事業は、基本的に子育てをしながら情報共有をするという事業である。今回の子育て世代包括支援センターは、妊娠期から出産、子育て期までの切れ目のない支援という部分が大きな違いである。妊娠期から専門的な知見をもとにアドバイスし、最終的に子育て支援に繋げていく。ネットワークを構築し、関係機関との連携を深める中で、最終的に子育て期にわたるまでの切れ目のない支援をしていく、その始まりの部分が支援センターであると考えている。

< 酒井委員 >

ガレリアの事業は、わざわざ相談に行くまでもないが、おられる支援員に話ができるという良い事業であるので、せっかく専門的なところも作るのであれば、取りこぼしのないようにしていただきたい。要望である。

< 奥村委員 >

資料P3の「平成26年度は、妊娠・出産包括支援モデル事業として実施」というのは何か。亀岡市のモデル事業はどのように実施したのか。

< 健康福祉部長 >

子育て世代包括支援センターについては、平成27年6月30日閣議決定の「まち・ひと・しごと創生基本方針」において、妊娠期から子育て期にわたるまでの様々なニーズに対しワンストップで拠点整備をはかることになっている。子育て世代包括支援センターは、平成27年度中に150カ所を整備し、おおむね5年後までに地域の実情を踏まえながら全国展開を目指していくとなっている。この構想の母体となったのが26年度に創設された妊娠・出産包括支援モデル事業である。この母子保健相談事業については、27年度から利用者支援事業母子保健型として、消費税財源を活用して拡充するもの。モデル事業等の実施はしていない。

< 馬場委員長 >

亀岡市としてはモデル事業を実施していないということか。

< 健康福祉部長 >

そうである。

< 奥村委員 > モデル事業から始めるのが本来である。10月から委託というが、業者や場所の目安はあるのか。

< 馬場委員長 >

まず受け皿の業者についてはどうか。

<健康福祉部長>

公募しないと分からないが、あるものと考えている。

<馬場委員長>

場所についてはどうか。

<健康福祉部長>

実施要綱があり、保健センター等の周辺で行うとなっている。保健センターを含めた場所で考えている。

<奥村委員>

保健センターを貸し出すということか。

<健康福祉部長>

それも1つの方法である。その周辺に適切な場所があれば、そちらでやってもらえればと考える。

<奥村委員>

モデル事業も実績もなく、いきなりである。なぜモデル事業をしなかったのか。今までどういう温め方をしてきたのか。

<健康福祉部長>

指摘の通りである。ただ、府下の状況を見ると、平成28年4月から既に5市で実施している。他にも平成28年度中の実施予定が3市あるので、本市も何とか実施していきたい。議員が言われるように、連携が図れるようにして実施していきたいと考える。

<奥村委員>

補正になった理由は。本来は当初予算でするべきでは。

<健康福祉部長>

指摘の通りである。本来、平成28年度の当初予算に計上すべきものであったが、調査能力が劣っており計上できなかった。府下の状況を見て、急遽この時期に補正となった。

~ 11 : 13

(4) 第5号議案 亀岡市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について

<子育て支援課長>

(資料に基づき説明)

~ 11 : 23

[質疑]

<酒井委員>

現在、実際に本市で行っている保育事業とどう関わってくるのか。

<子育て支援課長>

家庭的保育事業が、ということか。

<酒井委員>

今やっている事業とは関係がないのでは。この改正により、本市の保育の状況が変わるわけではないということで良いか。

<子育て支援課長>

省令は児童福祉施設等の基準及び設備についても同じように改正されており、法令上は同じような改正をすることができることになっている。

<酒井委員>

今回の改正で、現在実施している保育事業にどう影響が出てくるのか。影響が全くない部分の改正なのではないか。

<子育て・障害福祉担当部長>

現実の施設保育所には影響がない。課長が説明したのは、児童福祉法も同じような内容で改正されているということ述べたものである。

<酒井委員>

以前、家庭的保育事業を行うつもりはないと答弁されていたが、その方針に変わりはないのか。

<子育て支援課長>

子ども・子育て支援事業計画をもっている。本市では施設型の保育を維持する考えでいる。今のところ家庭的保育事業の展開は考えていない。

<酒井委員>

現在、保育士確保に頑張ってもらっている。また国も保育士の増員で動いている中で、当分の間、保育士でないものを保育士としてカウントすることを認めるような改正を、亀岡市も行う必要があるのか疑問である。そのことに対する考え方は。

<子育て支援課長>

今回の改正は、保育士が確保できず、待機児童が相当な数に上っていることが原因である。保育士の負担軽減につながるものであり、担い手の裾野を広げることを目的として改正された基準であり、一定理解はしている。

<酒井委員>

亀岡市では家庭的保育事業をしていない。「当分の間」の条例改正について、亀岡市も同じようにする必要はあるのか。

<子育て・障害福祉担当部長>

本市では保育所の環境整備に重点をおきながら、保育士の確保等を図ってきた。現実、乳幼児の入所希望が非常に多く、保育士を多く配置しなければならない。4月時点では確保できていても、途中入所には対応できないというのが現状である。本市としては、引き続き保育士の確保に重点を置きながら、待機児童の解消に取り組んでいきたい。このような制度改正があったとしても、基本路線は変えないというスタンスで子育て支援に邁進してまいりたい。

<奥村委員>

今回の改正については、以前、条例制定されたものを一部改正するものであり、全国的に改正がある以上は、条例も当然改正した方がよい。ただ思うのは、各公立保育所はあまりにも一律化していて特徴がない。保育所に特徴を作っていけば、待機児童も減るのではないか。そのような方法もあると考える。

<馬場委員長>

条例案要綱に「保育士の確保が困難な状況を踏まえ」と書かれているが、これは一般論としての状況を指しているのか、具体的に本市の待機児童の状況を想定しているのか。

<子育て支援課長>

全国的に保育士の確保が困難な状況がある。本市においても同様である。

<馬場委員長>

当分の間とは、どのくらいか。

<子育て支援課長>

まだ見通しはないと思っているが、一定、政府が進めている受け皿の確保ができた時点と考えている。

<馬場委員長>

幼稚園教諭から養護教諭まで代わりになることができるというが、ただでさえ労働条件が悪いことが問題になっている中、労働条件の良い職場から来られる可能性、見通しはあるのか。

<子育て支援課長>

労働条件は雇用者と被雇用者の間の話し合いで決められるもので、条件が合えば、ということになると思う。ただ、小学校教諭、養護教諭、幼稚園教諭は採用率が非常に低いので、保育士同様に潜在者は多いのではないかと考える。

<馬場委員長>

1 / 3 規定の根拠は。

<子育て支援課長>

政府の改正した経緯として、「保育士等確保対策検討会」で検討されて1 / 3 が決定したが、あまり明確な根拠はなかった。議論の中で、幼稚園教諭だけになる等、保育士がいない状況にならないように、保育士と複数で保育を行うようにすること、という意見があった。次に、一定の基準の範囲内で定めるべきという意見があり、そして1 / 3 と定められたものである。そのような議論の流れの中で制定されたものである。

[理事者退室]

~ 1 1 : 3 4

[自由討議]

<奥村委員>

突然、子育て世代包括支援センターの事業をしようとしているが、本当にできるのか不安である。本来はモデル的にやっていって、その上の話ではないか。そのあたりをどう考えるか。

<福井委員>

不安は不安である。他の市町村と足並みを揃えてやろうとしているということであるが、どういう形でやるのか目を光らせていくしかない。

<富谷委員>

会派では、母子保健型を実施してほしいとずっと言ってきた。しかし産前産後の受け皿がなく、やっとNPOで立ち上げたと新聞に掲載されていた。受け皿が見え始め、これならやれるとの判断だと考えた。モデル事業は先にやるべきだったかもしれないが、NPOがいくつか出てきたことが開始の判断材料となったと理解している。

<小川委員>

急遽ということで不安な面もあるが、産前産後の不安解消にきっちり取り組んでほしい。ガレリアの子育て支援センターは、初めて子どもを産む人には良いと思うが、2人目・3人目、小さい子供を抱えてとなると、包括支援センターとの情報共有もきっちり考えて、取り組みを進めてほしいと考える。

<酒井委員>

ガレリアの子育て支援センターは、わざわざ「相談しに行こう」と行かなくても、話の中で聞き取っているいろいろなアドバイスしてもらえらる良い事業である。それとは別にこういうものを作って、相乗効果になるのなら良い。ただ、ガレリアは遊びついでに行くとしても、こちらに来ない人をどう繋げていくのか。また、半年で800万円だが、今後続いていくとして、市の負担が1/3としても年間で500万円になる。今やっている子育て支援センターとの兼ね合いを考えると、そこにその機能をくっつけるのではダメだったのかなど、いろいろと疑問が湧く。補助金がつく、事業の型が違うということではなく、効率的にやってほしい。

<平本副委員長>

事業を始めることありきに思える。事業を行う上で今後中身を充実し、最終的に成果があがる形になれば望ましい。

<馬場委員長>

現場での積み上げがない中で、事業そのものの説明書をもっても、もう一つである。ただ、非常に重要な中身になるとは考える。

<奥村委員>

家賃等も入っているのか。

<福井委員>

どうせならガレリアでやれば良いのでは。

<小川委員>

ガレリアで整合性をもって効率よくできないのか。

<酒井委員>

どう進めるか、だいたい想定はされていると思う。保健師もおそらく専門ではない。

<馬場委員長>

保健センターは比較的、母親がよく行く場所である。

<平本副委員長>

認知を広げる意味では、もう少し創意工夫があっても良い。久留米市では幅広く、ネットを使うこと等もされていた。そういった告知もこれから必要になってくると考える。

<奥村委員>

保健センターの近くなら、定期健診や予防接種の時などに行きやすい。NPOに委託するなら、本市の保健師は使えない。しかし妊婦健診や予防接種、定期健診等の際、近くにあるから行ってくださいという感じになってくるのでは。

<議会事務局長>

歳出予算では業務委託料828万1千円となっている。委託する業務の中身に従事する関係者は、全て相手先で雇用等をしていただき、その分が委託経費に含まれることになる。市の保健師が同じ業務にあたるのであれば、その分は委託料には含まれないことになる。予算上の考え方である。

<馬場委員長>

そのあたりは、予算等の執行の状況をしっかり見ていかないといけない。

<酒井委員>

第5号議案について、条例案要綱で「保育士の確保が困難な状況を踏まえ」改正すると言うが、この改正により本市の保育士確保の困難な状況が良くなるものではない。国は保育士確保策を進めていくはずなのに、当分の間と言いながら、養護教諭や幼稚園教諭等、採用率が低いところから引っ張ってこようとするのは本末転倒である。亀岡市がこういった事業をやるようになって、必要であれば、その状況を見

て我々が判断すべきである。

<奥村委員>

例えば市税条例など他の条例でも、亀岡市に関係ないところの変更も全国一律で行っている。いったん条例を制定した以上、一定そういう整理をしておかなければ、組織として人事異動もある。他市から亀岡市に転入してそういう事業をしようという人があった時、前に住んでいた地域と亀岡市の条例が違うというのも具合が悪いことになる。亀岡市だけの問題ではない。

<酒井委員>

亀岡市は「やらない」と言っているのにそれを認めてしまい、後から「やっぱりやります」となれば、条例を改正しなくてもできてしまう。我々が関われるところがなくなってしまう。保育所の話に限らず、関係ないところも一律にやっているのが困ったところだと考えている。人事異動があるから分からなくなるので厚労省から来た条例案通りにやっておくというのを改めていきたい。いろいろ難しい課題はあるが、理想としてはそうである。

<馬場委員長>

奥村委員と同意見である。家庭的保育事業は亀岡市の中だけで展開しているものではなく、全国展開している事業所が来る場合、何の規定もなかったら対応できないと考える。

<酒井委員>

家庭的保育事業をしないとやっているが、外から来てやることになっても、我々のチェックなしで、やってもらったら良いと考えるのか。

<馬場委員長>

思っていないが、それと来ることは現実問題違う。

<酒井委員>

緩和された条件でやって良いのかどうか、自分たちのまちの状況を見て判断したいと考えないか。

<馬場委員長>

そんなに急ぐ必要はないということか。それも一理ある。

<奥村委員>

幼稚園や学校教諭のOBは、世間一般に見たら、プライド等もあり、なかなか保育士の下で一緒にやるのは難しいかもしれない。

<馬場委員長>

そういう方々はプライドよりも子ども基準で考えておられる。自分が力を尽くすのはやぶさかではないと考えておられるが、高齢になると体力がなく、子どものエネルギーに勝てないという人は多い。

～ 11 : 52

4 討 論～採 決

[討 論]

<酒井委員>

報告第1号に賛成。認めるしかないと考えるが、きちんとこれから見ていってほしいと考える。

第5号議案に反対。認めても問題ないかもしれないが、理想としては必要になってから、亀岡市の状況を見ながら判断していくべきものである。やらないと言ってい

るものについての規制緩和を、国からきたからといってその通りにやるのはなくしていきたくて考えている。

<福井委員>

報告第1号に賛成。イレギュラー的に専決になったことに関しては、今回は大きく問題にはできない。しかし、パイ自体が上がってきているということを指摘しなければならないと考える。

第5号議案に賛成。当然市としては保育士を確保していくが、保育士を確保できない状況がなくなるとは言い切れない。その時にあわせて条例を改正するよりも、今後の流れの中で、そういうことが可能なように法整備をしておくことは、子育てを標榜する本市にとって、何の障害にもならないと考える。

~ 11 : 56

[採決]

報告第1号	挙手	全員	承認
第1号議案	挙手	全員	可決
第5号議案	挙手	多数	可決(反対:酒井委員)
第6号議案	挙手	全員	可決

~ 11 : 57

[指摘要望事項]

<酒井委員>

報告第1号について、医療が高度化して高額なものが出てきたら見込みがくるってしまうことは以前にもあった。高度な医療によって高額な支出があるかもしれないということを考えた上で今後の見込みをたてて、このような専決がないようにしていただきたい。

<馬場委員長>

高度医療による高額医療費の捕捉をしっかりと行うべきだとのことである。

<奥村委員>

逆に、見込んでいてたくさん余った時、どのような見込みをしていたのかと言われるのを担当課は嫌がる。それを含めて我々が了解するなら良いが、あまり大きな支出を見込むと、交付金の還付を含めてしていかなければならない。

<酒井委員>

足りないからといって借金するよりは良い。余ったからけしからんと言う人は、この委員会ではないのではないか。きちんと見込みをたててやることの方が重要である。

<奥村委員>

当初予算にすると、国民健康保険料のアップにもつながってくるのは確かである。

<馬場委員長>

指摘要望としては、「高度医療による高額医療費の適切な支出を見込んでいただきたい」でどうか。

<酒井委員>

医療の高度化による高額な給付を見込んで、としてはどうか。

<馬場委員長>

「医療の高度化による高額医療費の支出を適切に見込まれること」でどうか。

<了>

<馬場委員長>

他に指摘要望事項はあるか。

<福井委員>

子育て世代包括支援センターについて、ある意味ぶっつけ本番でやることになる。半年間しっかりと委員会として見ていきたいと考えるが、それを指摘するのは難しいかもしれない。

<馬場委員長>

委員長報告の中では言えるのではないか。

<福井委員>

現実にやっている市町村もあり、その事例をもっと研究するように指摘してはどうか。

<馬場委員長>

先行自治体の事業をよく研究されたい、ということか。

<酒井委員>

指摘要望ではないが、事業が始まったら一度報告をしていただくように委員長から伝えていただきたい。

<馬場委員長>

当委員会への報告を要望することとする。指摘要望としては、「先行自治体の事例をよく研究の上、実施をはかられたい」でどうか。

<酒井委員>

今ある事業との連携や情報共有をきちんとしていただくことも付け加えていただきたい。

<馬場委員長>

「先行自治体の事例をよく研究するとともに、今の事業との整合性をはかられたい」でどうか。

<酒井委員>

連携して、より効果の高いものにしていただきたい。

<馬場委員長>

「先行自治体の事例をよく研究するとともに、既存事業との連携を図られたい」でどうか。

<了>

<馬場委員長>

委員長報告については、次の委員会で確認する。字句等の整理については、正副委員長に一任願う。

～ 12 : 06

5 その他

議会だよりの掲載事項について

<福井委員>

子育て世代包括支援センターについて書いた方が良い。

<酒井委員>

他になければ第5号議案も書いてはどうか。

<奥村委員>

載せなくても良いのではないか。

<事務局>

今回は行政視察のレポートもあり、1項目しか掲載できないかもしれない。

<馬場委員長>

1項目と視察レポートとする。掲載事項のまとめについては正副委員長に一任いただきたい。

<了>

行政視察のまとめについて

<馬場委員長>

前回の委員会での意見等を踏まえ、別紙のとおり正副委員長で行政視察の報告書をまとめたので確認願う。意見はないか。

(意見なし)

<馬場委員長>

このような内容で良いか。

<了>

<馬場委員長>

復命書を議長へ提出するので、のちほど復命書に押印願う。

議会報告会の意見対応について(5月28日開催分)

[委員長から意見・要望などの概要及び当日回答内容を項目ごとに報告、対応を協議]

- ・ 1 : 環境厚生で判断すべきものではない
- ・ 2 : 参考
- ・ 3 : 参考
- ・ 4 : 参考

次回の月例開催について

<馬場委員長>

次回の月例は7月27日午後1時30分からとする。

散会 ~ 12:30